

# 令和6年度(2024年度)「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	佐賀市立大詫間小学校	児童数	73人
-----	------------	-----	-----

## I.取組前の宣言内容

宣言	目標	図書館をもっと好きになろう！
	取組期間	令和6年(2024年)4月15日～令和6年(2024年)11月30日

※令和6年(2024年)4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和6年(2024年)11月30日までの取組みとする。

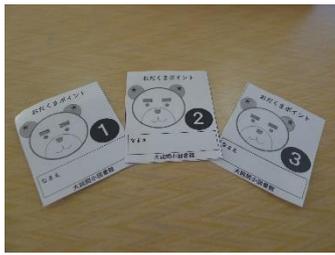
## II.取組後の評価

	取組人数	73人	実施日数	261日	読書冊数	10030冊	連携した団体数	1
評価	取組内容(概要)	<p>① 図書館利用への動機付け</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ポイント制度の導入や図書委員による表彰・年度当初の目標決め</li><li>・各種イベント・参加したくなる「図書館まつり」</li><li>・市立図書館の団体貸出の利用</li></ul> <p>② 図書委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・図書委員おすすめの本のコーナーの常設</li><li>・図書委員手作りの賞状・メダル・図書委員によるビブリオバトルの開催</li><li>・川副地区「コラボ給食」</li></ul> <p>③ 本の紹介の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・児童が自分たちで選ぶ「おすすめ20選」・「新着図書」の掲示</li><li>・「みんなのおすすめの本」のコーナー</li></ul> <p>④ その他 ・職員全員参加型の「朝の読み聞かせ」</p>						
	工夫したこと	<p>① 図書館利用への動機づけ</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本を借りたり、イベントに参加したりするともらえる「おだくまポイント」を導入した。ポイントを集めると「オリジナルカード」や「しおり」「一日図書委員券」などと交換できる。</li><li>・年度初めに各児童の目標を書かせたカードを作成し、図書館の入り口に掲示した。貸出冊数が50冊を超えるごとに、自分でシールを貼らせた。また、毎月の図書館だよりで各月の多読者の紹介をした。月毎に区切って紹介することで、多読者が毎月入れ替わり、児童の意欲を喚起することができた。年間貸し出し冊数が100冊を超えると賞状・200冊を超えるとメダルがもらえるようにしている。</li><li>・図書館まつり以外にも、ほぼ毎月くじ引きなどのイベントを行った。9月に「本のクイズを作ろう」というイベントでは、児童にクイズを作らせ、10月にはそのクイズを使って「ハロウィン本クイズ」のイベントをした。封筒に入れて外にバーコードを貼ることで借りる本がわからないようにして期待感を高め、また、その本には友達が作ったクイズを貼っているので本を読んでクイズを解く楽しさも味わえるようにした。</li><li>・図書館まつりではパリオリンピックを意識した「縦割り班対抗の国旗パズルの作成」、「縦割り班対抗の辞書引き大会」秋には国スポを意識した「縦割り班対抗の日本縦断カーレース」を行い、小規模校</li></ul>						

	<p>の特性を活かして、縦割り班で楽しめるような工夫をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校で蔵書数も少ないため、積極的に市立図書館の分館や分室を利用して、常に読んだことのない新しい本を児童が借りられるようにした。</li> </ul> <p>② 図書委員会の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会活動の時間に各自おすすめの本を選び、おすすめのポイントや、クイズを作り、「図書委員のおすすめの本のコーナー」として常設した。</li> <li>・「ビブリオバトル」自体を知らない児童が多かったので、児童集会を利用して図書委員によるビブリオバトルを開催した。ルールを変更し、一人1冊ではなく2人または3人で1冊の本を紹介する形式にしたことで、図書委員も緊張せず発表することができた。</li> <li>・多読者向けの賞状とメダルを図書委員が手作りしている。また表彰式も月ごとに、給食の時間を利用して各教室で図書委員が行った。</li> <li>・川副地区はセンター給食方式のため、栄養教諭と連携が必要な、本に出てくる食べ物が給食のメニューとして登場する「コラボ給食」のイベントを開催しにくい環境だが、栄養教諭と川副地区の学校司書が協力して実現することができた。同時に他校の図書委員会が作成した「スープが出てくる本」のポップコーナーも作ったので、他校の図書委員との協働もできた。</li> </ul> <p>③ 本の紹介の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年初のオリエンテーションの時間で図書の分類について勉強した後に、児童それぞれに担当の分類を割り振り、選書させて、0類から9類・絵本を網羅したクラスごとの「おすすめ20選」を選定した。「おすすめ20選」の本を読むとスタンプがもらえ、冊数に応じてポイントがもらえるようにしたことで様々なジャンルの本に触れる機会が増えた。</li> <li>・「新着図書」の本の表紙画像を図書館外の入り口横に掲示して、児童の目につきやすくした。図書館が開いていない時間や掃除時間にも児童の目に触れることで、新着図書に興味を持って本を借りに来る児童が増えた。</li> <li>・夏休みの読書カレンダーの裏を利用して「おすすめの本」の紹介のページを設け、自由記述にした。その中からクラスごとに数人を選び、「みんなのおすすめの本コーナー」を作り、紹介文とともに展示した。借りる本を選べない児童に対して「ともだちのおすすめの本を読んでもみたら？」と声かけがしやすくなった。</li> </ul> <p>④ 読書ボランティアと教職員による朝の読み聞かせ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では長年に渡って、月に2回、2名のボランティアに読み聞かせをしていただいているが、今年度からボランティアが入れないクラスには校長・教頭を含め、職員全員が交替で入るようになった。担任ではない先生の読み聞かせは新鮮なようで、児童も毎回楽しみにしている。</li> </ul>
<p>取り組んだ感想</p>	<p>昨年度の同時期より、一人当たりの貸出冊数は約10パーセント増加したので、「図書館をもっと好きになった」児童が増えたのではないかと思う。読書の入口は学校の図書館の入口でもあると思うので、まずは図書館に来ることを習慣化してほしい。ビブリオバトルは初めての試みだったので図書委員が行ったが、紹介した本はどれも貸出冊数が伸びたので、来年度以降は図書委員以外の児童や教職員も含めた本格的なビブリオバトルを開催したい。</p>
<p>今後の取組予定 (令和6年(2024年)12月 ～令和7年(2025年)3月)</p>	<p>1月は、「図書館たからくじ」のイベントを計画中。 また、冬休みに読んだ本の中から「みんなのおすすめの本」のコーナーを設置する。 バレンタインデーの時期には、折り紙で作る、メッセージカードの作成イベントも予定している。</p>

図書館利用への動機付け

～ポイント制度～



本を借りたり、イベントに参加したりするともらえる「おだくまポイント」。いろいろな賞品や権利と交換できる。



しおり・豆本やフリーパス券・オリジナル貸出しカード



大谷選手になりきってパチリ。



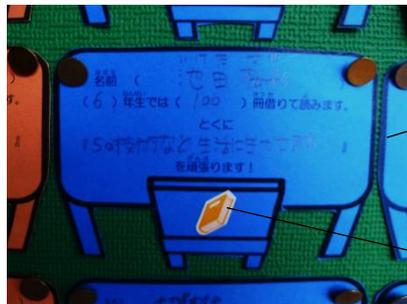
「一日図書委員」は1年生に大人気



5ポイントで図書館に購入する本を自分で選書できる



図書館の入り口に、全員の目標を掲示



6年生女子の目標。  
「目標冊数は100冊。  
5(類)の技術など生活に生かせる本を借りたい」

50冊かりごとに自分でシールを貼らせて達成状況が目で見えてわかるようにしている



くじ引きのイベントは大人気。いつも行列ができる。賞品は「おだくまポイント」なので準備も簡単。



「ハロウィン 本クイズ」のイベント。本は袋に入っているので、どの本が当たるかわからないドキドキ感と、友だちの作ったクイズを解くワクワク感が味わえる。



開けずに貸出しができるように袋の外に本のバーコードを貼付

クイズに正解するとポイントがもらえる



図書館の一角に「市立図書館から借りてきた本」のコーナーを設け、相互貸借を利用して、本館・分館などから借りてきた本を常時150冊程度配架している。常に新しい本が図書館にあることで、図書館へ来る動機付けにもなる。また、児童のニーズを知ることができるので、実際に購入する本の選書にも役立つ。

～図書館まつり①～



縦割り班で協力

1学期はパリオリンピックを意識して「世界の国旗パズル」を実施した。どの国の国旗なのか、本を使って調べる児童がたぐさいた。  
2学期は国スポを意識して、北海道をスタートしてゴールの沖縄を目指す「日本縦断カーレース」を実施。自分の班の車が、何県にいるのか、毎日教えてくれる児童もいた。「家族で行ったことあるよ!」「〇〇県は～がゆうめいだよ」と、会話もはずむ。

～図書館まつり②～



縦割り班対抗の「辞書引き大会」  
小さな声なら、班のなかまで協力できる  
ルールにしたので、辞書引きが苦手な児童も含め全員が楽しめた。

図書委員によるお話しは毎回大盛況だった。

パソコンの動画も利用したので  
作り方を忘れても安心



教育実習生をゲストにおかえて  
「秋といえば・・・」のビンゴ大会

図書委員が先生になってトロの折り紙づくり

図書委員会の活動

「図書委員おすすめの本」のコーナーを常設し、委員会活動の時間に、図書委員が自分のおすすめの本の紹介文を書いて展示している。カードには、おすすめのポイントをひとこと書いて、本の中からクイズを1つ出すようにしている。



～コラボ給食～

「コラボ給食」のイベントでは、川副中学校と川副地区の小学校4校の図書委員が分担して「スープの出てるおすすめの本」のポップを作成した。

～ビブリオバトル～



新着図書の中から、自分たちで紹介する本を選び、何度も練習して挑んだ。「ビブリオバトル」について知らない児童が多かったが、すぐにルールを理解して楽しんでいた。  
挙手でチャンプ本を決定。選ばれた『バナナじけん』は、しばらく予約が途切れないほど人気の本になった。

～図書委員会による表彰～



本校では毎年図書委員が100冊達成者に贈る賞状を手作りしている。名前書きから表彰まで、すべて図書委員が行う。



給食の時間を利用して、各クラスで表彰式。



200冊達成者には折り紙で作ったキラキラメダルを授与。こちらも、図書委員と司書で作成した。

本の紹介の工夫

～おすすめ20選～



4月のオリエンテーションの時間を利用して、「おすすめ20選」用の本を分類ごとに児童に選ばせた。20冊に満たない部分については、教科書で紹介されている本や、司書のおすすめの本を入れた。「おすすめ20選」の本を借りるごとにスタンプを押すことができ、10冊・20冊達成でそれぞれポイントがもらえるようにした。「おすすめ20選」の本は別置せず配架し(分かりやすいように、背に学年のシールを貼った)自分でスタンプカードの請求記号を見て探すようにして、自然と背ラベルのしくみや、配架場所が覚えることができるよう工夫した。

～みんなのおすすめの本コーナー



児童が夏休みに読んだおすすめの本を紹介したコーナー。宿題で配布する「読書カレンダー」の裏を利用して、紹介文を書かせた。

～新着図書の案内～

図書館入口の廊下にある「新着図書」のコーナー。児童の目につくよう、カラーで印刷している。



朝の読み聞かせ



月2回の朝の読み聞かせの時間。地域ボランティアのお二人と教職員4人が各クラスを担当している。

一人当たりの貸出冊数の変化

1年(7人)	151冊
2年(16人)	133冊
3年(9人)	168冊
4年(17人)	107冊
5年(10人)	77冊
6年(5人)	101冊
全校(64人)	122冊



1年(14人)	163冊
2年(7人)	166冊
3年(16人)	114冊
4年(9人)	100冊
5年(17人)	140冊
6年(10人)	147冊
全校(73人)	137冊

令和6年度

令和5年度

全体では昨年度より約10%、一人当たりの貸出冊数が増加した。学年ごとに見ると、5年生が4年時の107冊から140冊、6年生が5年時の101冊から147冊と、大幅に増加しており、学年が上がるにつれ図書館へ足が遠のいていた児童の図書館利用が増えたことがわかる。